

支部探訪—岩見沢 支部長 尾崎 和男

支部結成の頃

何人かのカメキチ?が岩見沢市内の写真店「カメラの理光」へ通っていました。ある時、当時店長の今野洋一さんが、そんな仲間を集めて会を作ったら...と言うことから、近くの喫茶店に集まり「写団こぶし」という会を結成したのが、昭和四十五年の春でした。

やがて、「写真道展」を指さそうと、「道写協岩見沢支部」設立の相談で、当時、道新事業局の蠣崎さんの所へ何回も足を運んだの思い出します。

昭和四十六年四月に、近隣の市町村の仲間と一緒に岩見沢支部を結成し、「写団こぶし」は発展的に解散をしました。

昭和四十七年四月に岩見沢文化連盟に加盟し、岩見沢市の文化事業に大きく貢献し活動を続けております。

写真を楽しむ

写真道展を目標にしながらも、《写真を楽



例会風景



ガーデンテラス

しむ》ことを基本にしております。

年に六回の例会、撮影会、文化祭、芸術展、写真道展巡回展など、年間を通じて行事の切れ目はありません。また、近隣の写真の会から写真審査の依頼、広報町連の表紙写真、高文連への協力など、支部としての力を発揮しているところで。

やはり写真の勉強は例会です。参加者が持点による投票で上位作品が決まりますが、その講評は、年度当初に決まっている六人の講評者が当番月の講評をします。

当然、投票する人も、審査員になったつもりでやりますし、いづれ講師者として話すことがあるので真剣な、例会風景が展開されます。会員の個展も開催されており、観る楽しみも多くなったことは、会員の研鑽にもなり、心身共に健康の証拠と思っております。

写真道展を指して

写真を志す以上やはり目標は「写真道展」の入賞です。そんな中で、道展の実績が認められ会友となった田中明子さん、小泉栄子さんの二人が在籍し、後輩の指導に当たってくれ

るのも頼もしい限りです。そのかいもあって、田中明子さんは会友になる前の第五十三回写真道展大賞を受賞するなど、例会などの勉強会を通して、その成果が実ってきている今日この頃です。後に続けと、仲間がカメラを片手にあちこちに出没しているのです。

紹介



宮川恵子写真展—「してきくうかん」

日時 平成二十年十二月十二日(金) 十七日(水)
会場 富士フィルムフォトサロン札幌
札幌市中央区北三条西三丁目
札幌北三条ビルF
展示点数 全紙他約四十点

写真展開催によせて

身近なフィールドで、そこに存在するものを自分の感覚なりに切り取り表現した「してきくうかん」皆様には何を感じていただけるでしょうか?

役員会・実行委員会からのお知らせ

●志賀芳彦氏

写真道展審査委員長に

第五十六回写真道展審査委員長に決まった橋本博氏より、体調不良により辞退したいとの申し出があり、十月二十日道新文化事業社会議室において、緊急に会議を開催し協議して、志賀芳彦氏に依頼しました。快くお引き受けいただき、正式決定となりました。

●規約検討委員会開催される

今年の五月の支部長会議において、審査委員長、常任審査員の選出基準、会友承認基準の見直しについて、規約検討委員会を開催することが決定されました。

十一月八日(土)道新文化事業社において、審査委員の西野徳義(下川)、大和俊行(函館)、大崎和男(新得)、田嶋英夫(新ひだか)山下智札幌、佐藤武治(釧路)文書による参加と会務委員、事務局長が集まり開催いたしました。

検討課題は、審査委員長選出基準、常任審査員の選出基準の見直しですが、それぞれの選出基準を緩和することにより、審査委員長資格者を増やし、また、常任審査員の審査範囲を明確化することについて、具体的な意見と将来的な展望に立った提案が数多く出されました。

今後は、この会議での貴重な意見を踏まえ、企画委員会、役員会などで十分に煮詰めながら集約し、平成二十年度の支部長会議に提案していく予定です。

(本郷記)